

第1回電気技術顕彰「でんきの礎^{いしづえ}」として10件を顕彰
 ～10月17日に東京国際フォーラムで顕彰式を挙行～

平成20年10月6日
 社団法人 電気学会
 会長 田井一郎

電気学会では平成2年に電気技術史技術委員会を設置して、電気技術史の調査研究や、一般からの論文を公募して研究会等を開催していますが、活動のひとつとして数年前から顕彰制度についての調査、検討を進めておりました。そして、このたび創立120周年記念事業の一環として「電気技術の顕彰制度」を発足いたしました。

（「顕彰」とは「隠れた功績・善行などを称え、広く世間に知らせること」）



「21世紀においても持続可能な社会」というものを考える上で、20世紀に大きな進歩を見せ、「社会生活に大きな貢献を果たした電気技術」を振り返り、かつ、その中でも価値あるものについては広く認知・顕彰し、次世代に継承していくことが大変重要です。

このため、電気技術関係者にとっては当たり前と思われていることの中でも、一般の方々にはほとんど知られていないあるいは気付いていない、「社会生活に大きく貢献した電気技術」について、その功績を称えると共に、その価値を広く世の中に周知し、多くの人に電気技術に対して関心を持ってもらう必要があります。このような趣旨で当学会では今回の顕彰制度をスタートいたしました。

電気技術顕彰「でんきの礎」が対象としているのは、技術史的価値（技術革新をもたらした）、社会的価値（社会変革をもたらした）、教育的価値（電気技術を次世代に継承する上で重要な意義をもつ）のいずれかの価値を有する、約25年以上経過した電気技術の業績で、カテゴリーとして『モノ』、『場所』、『こと』、『人』の4つを設定しております。

今回選定した10件には、「秋葉原（秋葉原駅周辺の電気街）」、「インバータエアコン」、「電力系統安定化技術」などがありますが、次頁に記載の顕彰理由のとおり、いずれも社会生活に密着したものであることがおわかりいただけると思います。

当学会では上述のような趣旨で顕彰制度をスタートいたしましたが、それと同時に、若者の理工系離れが進むなか、電気技術の素晴らしさ、面白さを顕在化させることにより、若い人たちの電気技術への関心が高まることも期待しております。また、このことは、ひいては今後の電気技術の発展への寄与にもつながるとも考えられることから、電気技術の顕彰「でんきの礎」の選定は、当学会が果たすべき社会的責任でもありと考えております。

来年度以降も当学会の重要事業のひとつとして「でんきの礎」の選定を行っていく所存ですので、今後ともご支援いただきますようお願いいたします。

第1回電気技術顕彰「でんきの礎」 (50音順)

顕彰名称
秋葉原（秋葉原駅周辺の電気街）
インバータエアコン
ガス絶縁開閉装置
電力系統安定化技術
交流電化発祥の地（作並駅および仙山線仙台～作並間）
志田林三郎と多久市先覚者資料館
日本語ワードプロセッサ
藤岡市助と岩国学校教育資料館
座席予約システム：マルス1／みどりの窓口の先がけ
500kV系送電の実運用

*顕彰理由等の詳しい情報は別紙（次頁）に記載しております。

副賞として授与されるクリスタルトロフィーと青銅プレート



以上

顕彰名称 / 顕彰先 / 顕彰理由	カテゴリー	写真
秋葉原（秋葉原駅周辺の電気街） 秋葉原電気街振興会（東京都千代田区） 戦後の混乱期から家電販売の集積地として発展。また、真空管やラジオ部品等の電子部品も電気を学ぶ学生やマニアの為に提供。時代の推移と共にその取扱う製品は変わってきているものの、今日では「世界の秋葉原電気街」と呼ばれるまでに、電気技術発展に大きな貢献を果たしている。	場所	
インバータエアコン 東芝キャリア（株） 世界初のインバータエアコンを開発・製品化し、今日のインバータエアコンの基礎を築いた。家庭用電気機器の中でも消費電力の大きかったエアコンを、省電力・省エネ運転することで、地球環境問題にも大きな貢献を果たしている。	モノ	
ガス絶縁開閉装置 三菱電機（株）、（株）東芝、（株）日立製作所 信頼性・安全性・耐環境性（塩害、騒音、震動など）を格段に向上させた、日本固有の立地条件にマッチしたコンパクト形電力用ガス絶縁開閉装置の開発・製品化。停電が減り、電気供給の安定化、信頼性向上に貢献している。	モノ	
電力系統安定化技術 東京電力（株）、中部電力（株）、関西電力（株）、九州電力（株） 停電事故を最小限にとどめ、安定・安全な生活が営める様にした電力系統技術。停電が減り、電気供給の安定化、信頼性向上に貢献している。	こと	
交流電化発祥の地（作並駅および仙山線仙台～作並間） 東日本旅客鉄道（株）仙台支社 鉄道車両に交流電気を供給する運転方式の実地試験を日本で初めて行い、最初の営業運転を開始した交流電化発祥の地。後の東海道新幹線の交流電化技術として発展するに至る基礎を築いた。	場所	
志田林三郎と多久市先覚者資料館 多久市先覚者資料館 電気学会の創設者で、120年前の第1回総会にて唱えた電気工学の未来技術は20世紀に次々と実現し、その先見性は高く評価されている。資料館はこれらの功績を収集・展示し、地域社会と一体となり文化活動の一端を担っている。	人/場所	
日本語ワードプロセッサ （株）東芝 かな漢字自動変換方式を採用した世界初の日本語ワードプロセッサを開発・商品化。開発された技術は現在のパソコン、携帯電話など、あらゆるIT分野の技術として引き継がれ発展を続けている。	モノ	
藤岡市助と岩国学校教育資料館 岩国学校教育資料館 明治の黎明期に国産化技術の確立に奔走した日本の電機産業創設者の第一人者で、教育界および産業界に多くの足跡を残している。資料館はこれらの功績を収集・展示し、地域社会と一体となり文化活動の一端を担っている。	人/場所	
座席予約システム：マルス1/みどりの窓口の先がけ （財）東日本鉄道文化財団 鉄道博物館 日本のコンピュータ黎明期のオンラインリアルタイムシステムの代表で、みどりの窓口として国民に親しまれている列車の座席予約システム。交通分野における国内初の装置で、発券の迅速化、確度向上に貢献した。	モノ	
500kV系送電の実運用 東京電力（株）、関西電力（株） 急増する電力需要、遠隔地から高密度大消費地までの電力輸送を可能にするため、電力技術を結集して基幹系統の強化を図り、500kV電圧での実運用に初めて取り組み、電力の安定供給に大きく貢献している。	こと/モノ	

*この原稿のデジタル版・写真は <http://www2.iee.or.jp/ver2/honbu/35-foundation/> に掲載しています。